



Weekly Market Report

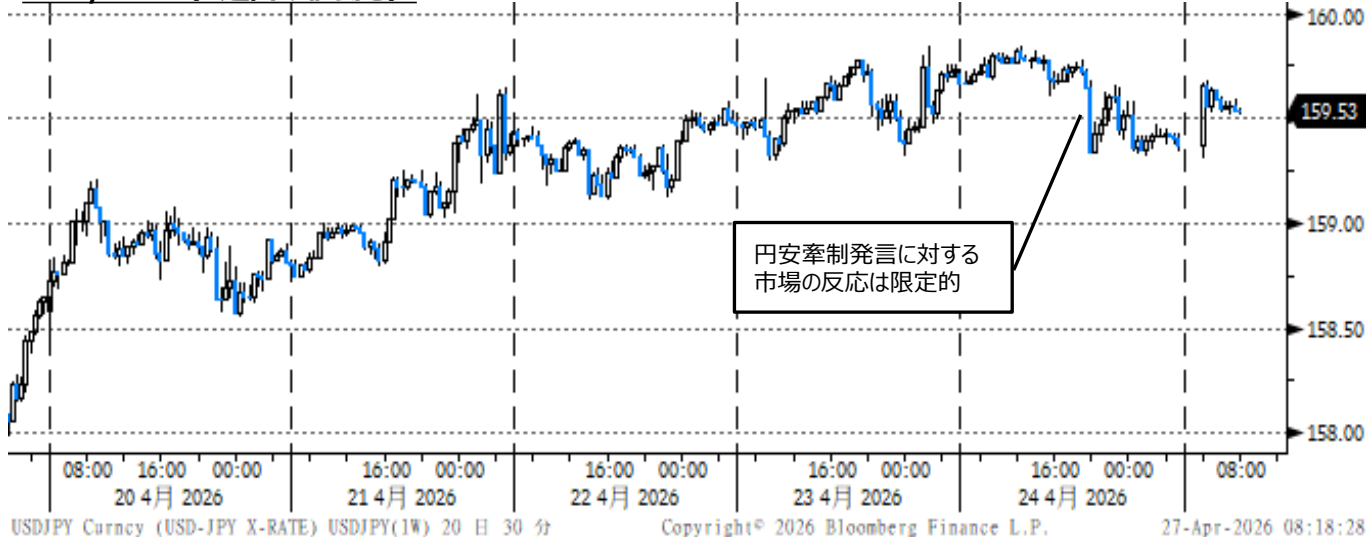
Apr 27, 2026

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

中東問題に振られた1週間。中銀イベントで新たな市場トレンド醸成に期待。

USD/JPY (1週間の値動き)



円安牽制発言に対する市場の反応は限定的

コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は159円台を中心に推移する展開となった。週初は4月日銀利上げ観測が後退したことで円売り優勢。中盤は中東情勢の緊張再燃による原油高と米金利上昇を受け、ドル買い先行。ドル円相場は159.84円まで上昇するも、片山財務相の円安けん制発言や米国とイランの和平協議に対する期待感から上値は限定的。159.37円で週の取引を終えた。今週は中銀イベントが多く控えているが、各国政策金利は据え置きが予想されており、次回会合に向けたスタンスが注目されるだろう。FOMCについては足元利上げしづらい状況と見られているため、タカ派と捉えられた場合はドル買いで反応、ドル円は160円を上抜ける可能性も。一方、日銀は6月以降に利上げが期待されているため、ハト派姿勢が見られた場合は円売りで反応するだろう。また、今後も中東情勢のヘッドラインには注意が必要。(市場営業部/鈴木)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
4/28(火)	(日本) 金融政策決定会合	0.75%
4/29(水)	(米国) FOMC	3.50% -3.75%
4/30(水)	(欧州) ECB	2.15%
4/30(木)	(米国) PCEデフレーター	3.5%
5/1(金)	(米国) 4月ISM製造業指数	53.1

USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

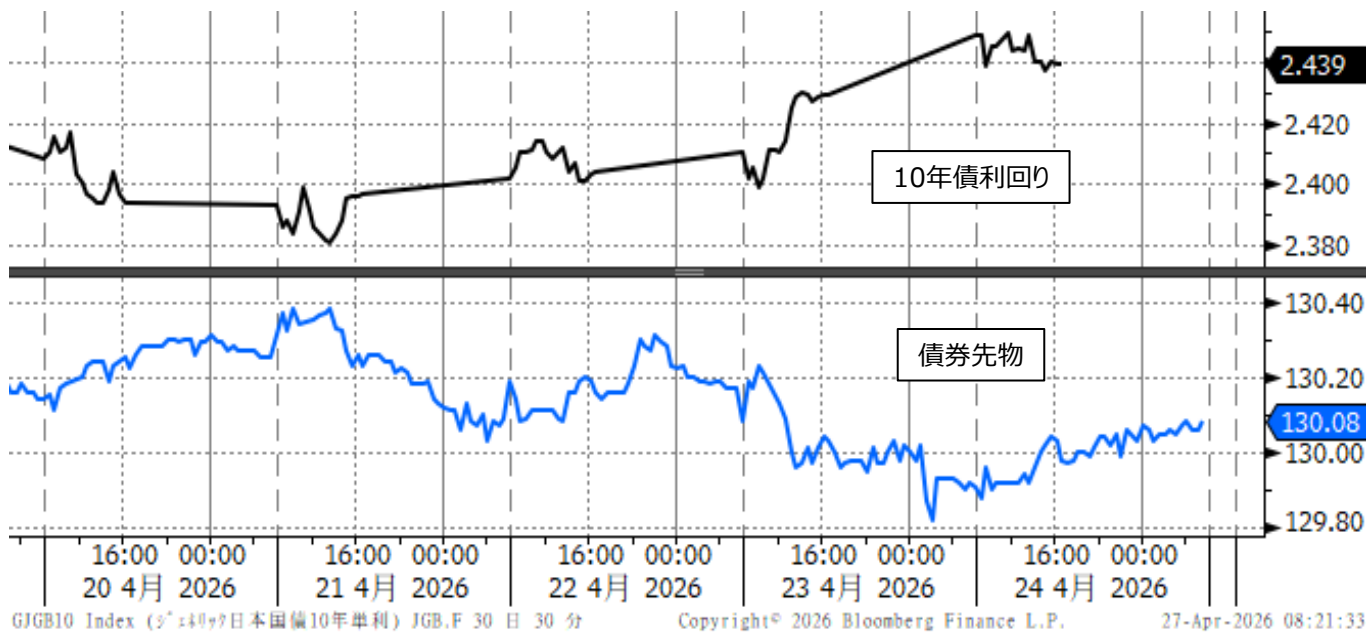
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
亀城彰太	157.70 – 160.50	原油価格高止まりの中、今週BOJで今後の早期利上げ姿勢が示されなければ、円買い要因に乏しい状況が続くと予想。
鈴木誠哲	158.00 – 161.00	今週はFOMC、BOJ、ECBの金融政策に着目。主要高官らの発言によるドル円の上下動には警戒したい。

2. 円金利相場概況

4月利上げは見送りの公算、植田総裁の会見スタンスや反対票の数に注目

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



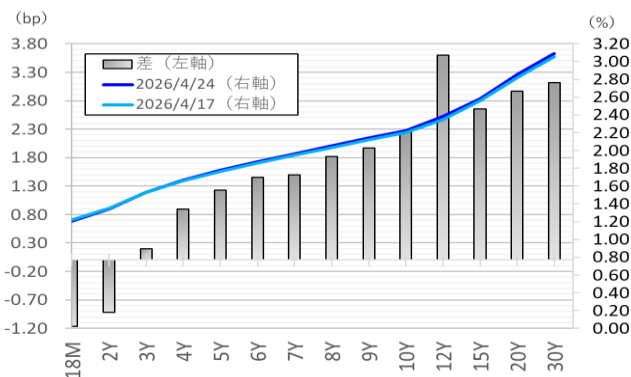
コメント

(出所) Bloomberg

24日引け時点の10年国債金利は、前週末から1.5bp上昇となっている。20日は前週末の中東情勢悪化を受けて先物が29銭ギャップアップして寄り付き、その後も債券は買い優勢で推移した。夕方には4月日銀金融決定会合での利上げ見送り観測報道が流れるも、市場は既に織り込んでおり影響は限定的だった。21日の流動供給性入札は強めの結果。22日は21日の米国時間にアメリカ・イラン間停戦期間延長されたことを受けて中東懸念が後退し買い優勢となったが、週末にかけてはGW明けの入札を意識した売りが先行した。

今週は日銀会合が予定されている。4月の金融政策決定会合では、利上げ見送りの公算が大きく市場への影響は限定的と見ているが、植田総裁の会見のスタンスや利上げ見送りへの反対票の数には注目したい。(市場商品部/金利G)

金利スワップ変化（1週間）



10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

(出所) Bloomberg

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
飯野りさ子	2.40% - 2.50%	27-28日日銀、28-29日FRB、29-30日ECBと中銀ウィーク。29日が祝日で債券が買われにくく円金利は低下しづらい展開か。
小野口裕美子	2.42% - 2.52%	今週は中銀ウィーク。各国とも現状維持が見込まれるが、インフレ動向や利上げに対するスタンスを確認する意味で注目材料。

3. 今週のトピックス

イラン紛争による各国金融政策の影響

原油価格高騰によりインフレ懸念が高まり、金融政策はタカ派方向へシフト

先般からのイランを巡る地政学的緊張の高まりを受けて原油・為替市場は大きく変動しており、各国中央銀行の政策スタンスにも変化が見られる。本レポートでは米国のイラン攻撃(2月28日)前後において、日本銀行(以下BOJ)、欧州中央銀行(以下ECB)、連邦準備制度理事会(以下FRB)の政策金利見通しについて市場織り込みを比較・考察したい。

BOJ

年内の利上げ折り込みは1.7回→1.9回と約2回から大きな変化なし。イラン紛争前、2025年12月会合にて約1年ぶりに利上げ実施し、その後は据え置き。政策金利0.75%は緩和的との認識から利上げ継続の方針を示していた。

紛争勃発後、原油価格高騰、円安進行によりコストプッシュ型のインフレ懸念が強まっており、利上げ方針にほぼ変化はない。4月会合での利上げ織り込みは一時70%程度まで進んでいたものの、22日に停戦期間が延長されるなどイラン紛争の終結が見えず不確実性が高まる中、紛争の行方やインフレ・景気への影響を慎重に見極めたいとの思惑から据え置きが濃厚。足元では市場織り込みも5%まで剥落、6月会合以降の利上げ時期に焦点が移っている。

ECB

年内の政策金利の織り込みは0.5回利下げ→2.2回利上げへと大きく反転している。イラン紛争前、2025年6月の利下げ以降は2.0%で据え置きとなっており、年内は変更なしとのシナリオが有力視されていた。

紛争勃発後、3月には原油価格高騰により2026年インフレ見通しをベースシナリオ2.6%に引き上げるなど、年内の利上げ観測が大きく高まった。4月会合の利上げ織り込みは一時80%を超えるも、4月中旬にECB理事会メンバーから「政策変更は時期尚早」との意見があり、市場織り込みは足元15%程度まで低下。4月会合では金利据え置きが予想されるが、タカ派的なコミュニケーションが取られると想定される。

FRB

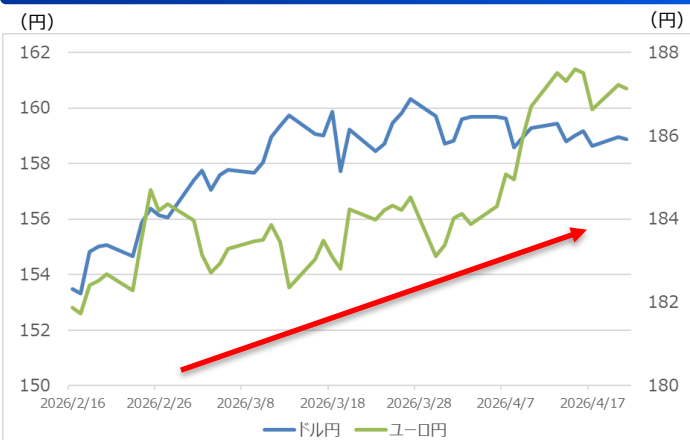
年内の利下げ織り込みはイラン紛争前後で2.4回→0.3回と大きく剥がされている。3月FOMC議事要旨では、紛争長期化によるインフレ再燃懸念や物価上昇率を目標2%に抑えるために利上げが必要となる可能性も示唆されるなど、利下げ観測は大きく後退。市場の関心はイラン紛争の交渉状況や次期FRB議長ウォーシュ氏の発言内容に移りつつある。

まとめ

イラン紛争勃発により原油価格高騰したことからインフレ懸念が高まり、各国中央銀行の政策スタンスが変化。BOJ、ECB、FRBを比較すると、利上げ路線であったBOJのみ変化が小さく、ECBおよびFRBは引き締め方向へシフト。今後もイラン紛争、原油価格高騰が長引くようであれば、ユーロ高円安およびドル高円安の流れは継続するものと予想する。

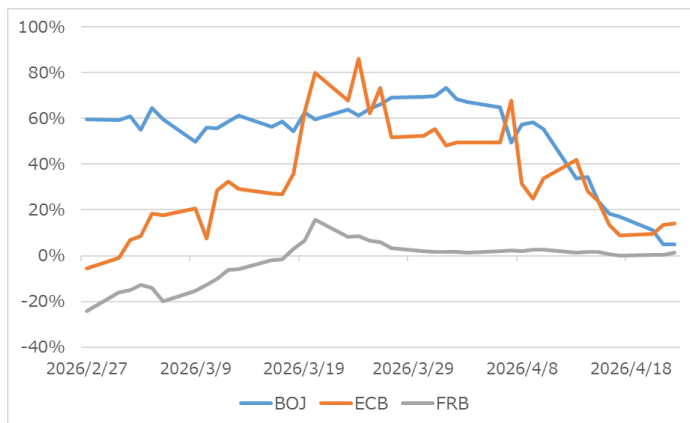
(市場営業部 堀)

【図1】ドル円(左軸)とユーロ円(右軸)



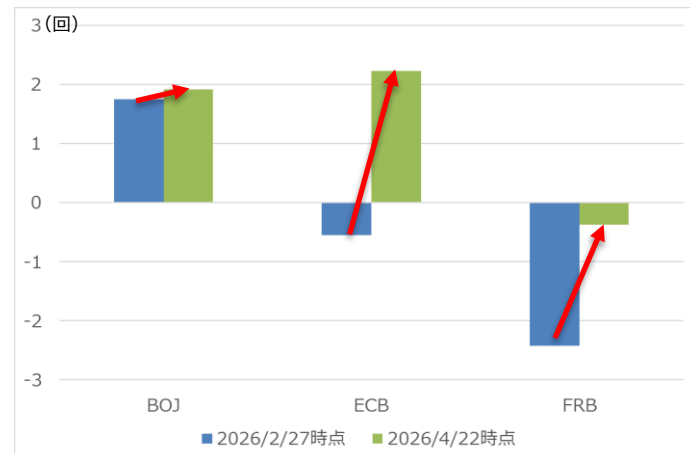
(Bloombergよりあおぞら銀行作成)

【図2】政策金利の市場織り込み(4月会合)



(Bloombergよりあおぞら銀行作成)

【図3】政策金利利上げ・利下げの市場織り込み(年内)



(Bloombergよりあおぞら銀行作成)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会